

消費者に喜ばれる良品生産と、誇りの持てる農業経営を目指して

大山町 濱田 巖

はじめに

私は、昭和49年に、を卒業し、就農しました。

当時、我が家では芝生産(280a)と肥育牛数頭を飼育しておりました。昭和50年頃葉たばこ生産導入の話が持ち上がり、専売公社の補助で共同乾燥場もできたことから、我が家でも昭和51年より葉たばこを中心にした芝との複合経営に転換しました。また、葉たばこを育苗していたハウスを利用して花壇苗を生産していました。

その経験を活かし、昭和62年に葉たばこをやめた後は、畑地を芝に全面切換え、ハウスで花壇苗の生産を柱にする経営に移行し、現在に至ります。

昭和62年より平成7年までの間は、花壇苗の市況も良く、順調に規模拡大を進めていました。しかし、その後は個人消費の低迷により花壇苗が生産過剰となり、量販店の安売りが定着し始め、単価が右肩下がりで推移していくようになりました。

経営を安定させる為、生産規模を制限し、苗物生産の雇用をゼロにして、一つ一つの商品に充分に手をかけ、品質重視で単価を上げる努力をしてきました。さらに、平成14年にJAの農産物直売所ができて、花壇苗の直売ができるようになったので、少量多品目生産に移行して、直売の比率を増やしました。

平成18年からは、野菜苗を少しずつ取り入れ、春は直売向けの野菜苗、秋は市場向けの花壇苗を中心とする経営の方向性が定まり、芝生産と組合せた経営を行っています。

平成25年には息子が後継者として経営に参加することになりました。

そこで、生産量の拡大と生產品の品質向上を図り、機械を導入して労力を軽減することで、「無理なく」「安定した」「効率の良い」経営を目指し、この度、プラン作成に至りました。

1 経営等の現状と課題

(1) 生産、経営の現状 (平成 25 年)

作目	面積	生産量
花壇苗	ハウス 7 棟、27.5a	16.9 万鉢 (春 3.1 万、秋 13.8 万)
野菜苗	露地 18.4a	4.5 万鉢 (春 3.5 万、秋 1 万)
芝	160 a	12,000 m ²

(2) 労働力

本人	濱田 巖	歳
妻		歳
子 (後継者)		歳

(3) 花壇苗の主力品目

春・夏	秋・冬
マリーゴールド	パンジー・ビオラ
ペチュニア	アリッサム
ビンカ	ハボタン
その他	その他

* 地元の直売所 (J A 農産物直売所) を中心に出荷しています。

* J A 鳥取西部花壇苗部会に所属し、市場は関西方面と地元 に
出荷しています。また、花回廊の苗も生産しています。

(4) 農業機械および施設状況

機械・施設名	台数・棟数	能力・面積
軽トラック	3 台	
土入れ機	1 台	
ビニールハウス	7 棟	27.5 a
作業場	2 棟	156 m ² 、182 m ²
フォークリフト	1 台	
ホイールローダ	1 台	
芝刈り機 (モア)	1 台	
防除機	一式	
暖房機	3 台	
播種機 (イージーシーダー)	1 台	

2 課題

(1) 花壇苗生産で重要な土

花壇苗生産では、ポットの土づくりが重要です。土が良ければ問題なく栽培できますが、悪い土を使うと水管理（灌水）が難しくなり、病気が出易くなり、生育が悪くなったりして、出荷のロスが多くなります。

現在、2種類の購入用土を混ぜて使っていますが、人力で混ぜると場所によって混ざり具合がかわり、生育にバラツキが生じたり、花壇苗の生育に悪影響を及ぼすことがあります。また、重い土なので、鉢を移動するたびに腰が痛くなります。

なお、出荷できなかった鉢の土は、以前は臭化メチルで消毒してリサイクル利用していましたが、しかし、臭化メチルが使えなくなって土の消毒ができない状況になっています。

(2) 播種作業の効率化

直売の割合が増えたので、少量多品目生産をしています。品種数も多いので、現在使っている播種機では、種まき作業にとっても時間がかかり、計画通りに種まきができません。

(3) 苗物の品質向上

近年、夏が暑くなり、苗物の生育が遅くなったり、葉焼けを起こすことが多くなりました。ビニールハウスの側面を解放するだけでは気温が下がりません。

一方、冬は保温栽培をしますが、暖かい空気がハウスの上方にたまってしまい、肝心の花壇苗の部分は寒かったりします。また、湿度が高くなり病気の発生が多くなることもあります。

空気を循環させ、これらの環境を改善して、苗物の品質向上を図りたいと思っています。

(4) 資材置き場

資材代を安くするため、年間使用する土、トレイなどまとめて購入していますが、現在、資材置き場が狭いので、外（露天）に並べています。

しかし、

- ① 雨風に当たると、トレイなどは土埃がついて汚れたり、紫外線により劣化してしまいます。また、出荷作業の時、雨に濡れたトレイを使うと苗物の葉に土がついて汚れてしまいます。
- ② 土は高温となり、混ぜてある肥料が溶出してしまうことがあります。こういう土に苗を植えると濃度障害で根が傷み、ひどい場合は枯れてしまいます。

(5) 規模拡大

息子が就農したので、規模拡大し、収入を増やしたい。将来的には花壇苗、野菜苗の生産を息子に任せ、未耕作地や借地をして、芝の規模拡大を進めたいと思っています。

芝は昔より単価は下がりましたが、最近需要があり、作れば売れる状態となっています。

3 生産、経営等の目標と効果

(1) 苗物の土の品質向上と土づくり作業の効率化

土を均一に、素早く混ぜるために専用のソイルミキサーを導入、併せて、病気と雑草の発生を抑えるために蒸気消毒器を導入します。このことで、

- ① 野菜用と花用など品目によって土の混合割合を変更し、品質向上を図ります。
- ② もみ殻など軽くて安価な材料を混ぜて、土の軽量化を図り、体に負担のかからない土にすることと経費（土代）の削減につながります。
- ③ もみ殻など鉢用土に使用する場合、白絹病などの発生が懸念されるので、蒸気消毒してから利用します。
- ④ 使用済みの鉢用土を蒸気消毒してから新しい土と混ぜてリサイクル利用し、経費削減を図ります。

(2) 種まき作業の効率化

花壇苗は種まきから出荷まで2ヶ月かからない物もあり、周年、種まき、鉢上げ（移植）、出荷などの作業を並行して行います。

少量多品目の生産をスムーズに行うために、作業効率の高い播種機を導入し、播種作業の効率化を図ります。

(3) 苗物の品質向上

夏場の換気と冬場の保温を効率的に行うため、各ハウスに循環扇を導入し、空気循環をさせます。

また、園芸試験場の試験研究によって、育苗中に電照をすると

- ① 開花が早まる
- ② 花数が増えるなど栽培期間の短縮、花壇苗の品質向上につながる事が分かってきました。育苗時に電照ができるよう、電照設備を導入します。

(4) 資材置き場兼作業場の確保

資材置き場に中古の骨材を使ったハウスを作る予定です。

資材を風雨の当たらない、直射日光の当たらない環境に置くことで、肥料溶出などのトラブルが回避できるようになります。

(5) 規模拡大

ビニールハウスの増棟により 1.5 万鉢の生産拡大になると思います。

息子に苗物生産の勉強をさせ、将来は任せたいと思っています。

息子が就農し、労力が増えたので、芝の生産を増やそうと思っています。高齢化等により生産を辞める周辺の畑を借用し（及び作業受託により）芝の生産を 350 a に増やします。そのためには、新型のスーパーを導入し、作業効率を高めたいと思っています。芝の肥料散布（基肥+追肥）の省力化のため、ブロードキャスター（牽引用トラクター）を導入する予定。

以上のことが実践できれば、出荷率の増加による収入アップが見込まれ、規模拡大につながると思います。

主な品目の作型とハウス利用計画

○：種まき、◎：移植、△：接ぎ木、▨：出荷

品目		月											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
花壇苗	パンジー ビオラ								○	◎	▨		
									○	◎	▨		
									○	◎	▨		
花壇苗	ピンカ ペチュニア	○	◎	▨									
			○	◎	▨								
花壇苗	サルビア		○	◎	▨								
							○	◎	▨				
野菜苗	トマト キュウリ			○	◎	▨							
				○	◎	▨							
	ナス												○
	キャベツ ブロッコリー	○	◎	▨						○	◎	▨	
		○	◎	▨					○	◎	▨		

- 花壇苗は、ピンカ、マリーゴールド等の春作とパンジー・ビオラ、コスモス等の秋冬作との組み合わせで、年2作のハウス利用が可能。
- 野菜苗も春作と秋作の組み合わせで、年2作のハウス利用が可能。

4 今後の具体的な取り組みと役割分担

事業内容	事業費	H26	H27	H28	連携機関
ソイルミキサー	183 万円	◎			県・町・本人
播種機の導入	38 万円		◎		県・町・本人
循環扇 6 台の導入 (サーキュレーター)	12 万円	○*			県・本人
電照設備一式(20m) の導入	3 万円	○*			県・本人
ビニールハウスの 導入 6m 間口×15m×1 棟	100 万円		◎		県・町・本人
資材置き場(ハウス) の導入 9m 間口×32m×1 棟	150 万円		◎		県・町・本人
トラクター(24ps) の導入	250 万円		◎		県・町・本人
ブロードキャスター (トラクター直装)導入	28 万円		◎		県・町・本人
スーパーの導入	192 万円		◎		県・町・本人
軽トラック(ダンプ) の導入	120 万円		○		本人
蒸気消毒器の導入	150 万円			◎	県・町・本人
事業費合計	1,226 万円	198 万円	878 万円	150 万円	
がんばる農家プラン 事業費合計	1,091 万円	183 万円	758 万円	150 万円	

* ◎はがんばる農家プラン事業で行うもの。

* がんばる農家プランで行う事業の本人負担 1/2 部分については、スーパーL資金を活用予定。

* ※は花き生産新技術・新品目等導入支援事業(単県事業)で行う予定。